

# 目次

口 絵

刊行のことば

上田市誌刊行会長

上田市長 平尾 哲 男

監修のことば

東京大学名誉教授・前国立歴史民俗博物館長 石井 進

まえがき

凡 例

はじめに—この本の課題……………1

氏文読み 氏文読みみる中世武士の属性 鎌倉殿の御家人 課題 その(1)武士と荘園

課題 その(2)生活と文化

## 第一章 都へ向かう武士

第一節 増えてきた庄園……………7

一 庄園の成立……………7

(1) 八条院領常田庄……………7

官符をもたない常田庄 八条院領常田庄の成立

(2) 最勝光院領塩田庄……………9

二 中世初期の庄園…………… 12  
塩田庄の成立 最勝光院領塩田庄 立庄にかかわった人々 庄園の成立

『吾妻鏡』文治二年の記録 日吉社領浦野庄 小泉庄は一条大納言家領 殿下渡領海野庄  
前齋院御領依田庄 『吾妻鏡』には載らない上田庄 小県郡内の牧と貢馬の消滅

三 庄園と公領の実際…………… 21

(1) 庄園と公領…………… 21

庄園 寄進地系庄園の急増 庄園の職と得分 庄園と公領の比 公領と知行国主 下級の庄官と地頭

第二節 開発領主…………… 27

一 手塚氏…………… 27

手塚氏の開発所領 手塚光盛と諏訪盛澄 手塚氏の関係史跡 手塚氏の系譜

二 浦野氏…………… 31

浦野氏が登場するのは 浦野氏の開発所領 浦野氏の系譜

三 そのほかの開発領主…………… 33

そのほかの開発領主

四 都へ向かう武士…………… 34

戦乱への参加 任官をめざして都へ

第三節 保元・平治の乱…………… 35

保元の乱 皇位継承のもつれ 摂関家内部のもつれ 源氏内部の嫡子争い

信濃から馳せ参じた武士 平治の乱

第四節 木曾義仲の挙兵……………40

一 旭將軍義仲の生涯……………40

木曾義仲の生涯 木曾義仲の生い立ち

二 義仲の勢力の確立……………42

義仲挙兵のころの動き 義仲の根拠地依田館 義仲に従った小県地方の武士 白鳥川原の勢揃へ

横田川原の合戦

三 京都への進撃……………48

頼朝との不和 般若野の合戦 俱利伽羅峠の合戦 手塚光盛と斎藤実盛 義仲と比叡山延暦寺

義仲の都入り

四 義仲の栄光と挫折……………53

義仲の不評と衰運 法住寺殿攻め 義仲の挫折

第二章 鎌倉時代の上田

第一節 鎌倉殿の御家人に……………59

一 義仲配下の武將に対する頼朝の処遇……………59

頼朝の裁き 頼朝に許された武士たち

二 御家人となった信濃の武士……………61

信濃武士の御家人化 上田地方の御家人

一	御家人の社会	64			
	田中光氏讓状と地頭職安堵	鎌倉武士の相続と安堵	戦乱と御家人		
	鎌倉を向く地方武士				
二	小泉荘と泉氏	68			
	泉親平の謀略が発覚	上田原平三	室賀郷の六町余善光寺へ寄進	小泉荘	頭役注文の小泉荘頭役人
	泉氏	浦田に中世の遺跡を発掘	比志島文書所領目録断簡	小泉荘の影絵	
三	塩田庄と地頭の島津氏・北条氏	78			
(1)	島津氏	78			
	島津忠久塩田庄の地頭となる	島津姓と惟宗姓	比企氏が後ろ盾	文治二年正月の袖判下し文	
	比企氏の滅亡と島津氏				
(2)	塩田北条氏	83			
	北条義政が塩田荘へ遁世	連署北条義政	鎌倉武士二番目の負担額	義政引退の事情	塩田北条氏
	塩田北条氏の残響				
(3)	領主と年貢	88			
	鎌倉時代後期の年貢納入状況	地頭の年貢抑留	荘園領主が東寺に替わる		
四	浦野荘と浦野氏	90			
	日吉社領浦野荘	浦野荘と尊長法印	日吉社領注進記	承久の乱と浦野氏	六条八幡宮造営注文
五	常田荘の藤原信実	97			
	常田荘の新しい史料	その裏文書は承久二年	造内裏役免除の申請許されず	藤原信実とはどんな人か	
	藤原信実の職	常田荘の伝領			
六	上田荘と大江・大田氏	102			

上田荘の名は鎌倉末期に	上田荘の頭役注文	上田荘と大田氏	備後国大田荘に大田氏流上田氏
大田氏が上田を名乗るわけは	霜月騒動の殖田又太郎	大江氏流の上田氏	上田太郎の棟札写と太郎山
上田荘との関係Ⅱ上田荘地頭Ⅱ	再び比志島文書断簡		
七 諏訪部氏	……		
諏訪部氏とその本貫地	善光寺奉行人と五廳の地頭	三刀屋郷は承久の乱の恩賞	三刀屋郷の伝領

『三刀屋文書』とその後の動向	越後国佐味荘赤沢村地頭職	諏訪部氏
八 上田と東部にまたがる海野荘	……	
弓馬の兵海野氏	上田と東部にまたがる海野荘	海野荘

九 浦野・坂木と薩摩氏	……	
有坂氏など薩摩氏の一族	村上氏と村上御厨	

第三節 鎌倉時代の交通	……	
-------------	----	--

一 鎌倉時代の道	……	
----------	----	--

中世の道	千曲川沿いの道	上州への道と松代への道	府中への道	鎌倉への道	善光寺への道
海野・祢津への道					

二 日理駅跡と天王坂	……	
------------	----	--

『一遍聖絵』から信濃人の往来と市	市がたった場所境目の地域	諏訪部の天王坂	神川の天王と市坂
三 塩田平における鎌倉への道	……		

鎌倉への道	塩田平の道筋
-------	--------

第四節 鎌倉時代の文化	……	
-------------	----	--

一 仏教における新風	……	
------------	----	--

中禅寺の薬師堂とその周辺	塩田は信州の学海	安楽寺開山樵谷惟徳と蘭溪道隆	三楽寺と院内
--------------	----------	----------------	--------

別所の地と鎌倉期の仏教文化 聖一遍の新風

二 諏訪の神と信濃武士のかかわり……………

信濃武士と諏訪社 諏訪上社の祭り 頭役 嘉暦四年「諏訪上社頭役注文」

諏訪上社造営を分担した郷村 下社の役は？ 再び諏訪社と信濃武士のかかわり

第五節 武士の館……………152

武士の館跡 手塚の大城 五加の館跡 東前山の館跡 浦野の館跡 築地の館跡

岩門の館跡(堀之内) 常田の館跡

第六節 鎌倉幕府の滅亡と上田地方……………166

一 鎌倉時代末期の社会情勢……………166

三刀屋郷諏訪部氏の所領相論 所領をめぐる相論の増加 鎌倉末期の社会 力を失った幕府

後醍醐天皇の就位

二 鎌倉幕府の滅亡と上田小県地方の武士……………170

鎌倉幕府の滅亡 元弘元年の幕府軍に従軍 元弘二年の甲斐信濃の軍勢 塩田北条氏の滅亡

足利高氏に呼応した人々

## 第二章 南北朝時代

第一節 建武の新政と信濃……………179

一 新政の混乱……………179

建武の新政と南北朝の時代 市河助房、新田と足利に到着 市河氏いち早く国宣を申請

足利高氏から尊氏へ

二 中先代の乱

中先代の乱 更埴河原の戦い 鎌倉の攻略と足利方の奪回

三 薩摩氏勢力の消亡と塩田荘

有坂氏の滅亡 坂木北条の戦いと薩摩氏の消亡 村上信貞戦功で塩田荘を領有  
建武新政の崩壊と室町幕府開創

第二節 南北朝時代の動向

一 足利与党の人々

(1) 安保氏と室賀郷

安保氏 室賀郷地頭職

(2) 出雲の諏訪部氏

出雲の諏訪部氏

(3) 奉行や評定衆になった依田氏

奉行や評定衆になった依田氏

二 観応の擾乱

室町幕府の二頭政治 尊氏と直義の対立 観応の擾乱 信濃における兩派の戦い 尾野山の合戦

不思議な白田光重の讓状 武蔵野合戦 笛吹峠の合戦

第三節 南北朝の統一と信濃

南朝勢力の衰退 信濃の守護

執筆分担

あとがき

参考文献

上田市誌の編さん組織

第一章

上田市誌の編さん組織

一 上田市誌の編さん組織の経緯

二 上田市誌の編さん組織の現状

第二章

上田市誌の編さん組織の経緯

一 上田市誌の編さん組織の経緯

二 上田市誌の編さん組織の現状

三 上田市誌の編さん組織の経緯

四 上田市誌の編さん組織の現状

五 上田市誌の編さん組織の経緯

六 上田市誌の編さん組織の現状

第三章

上田市誌の編さん組織の経緯

一 上田市誌の編さん組織の経緯

二 上田市誌の編さん組織の現状

三 上田市誌の編さん組織の経緯

四 上田市誌の編さん組織の現状

表紙

源頼朝下文 島津忠久が塩田庄地頭に補された補任状 (東京

大学史料編纂所蔵)

裏表紙

角川書店刊新修日本絵巻物全集11 『一遍聖絵』から「小田切里の武士(小田切氏)の家」―鎌倉時代弘安年代のようす―